

ラグビーワールドカップ特別対策委員会

速記録第二号

2016年1月29日

出席議員 十一名

委員長	吉原 修君	斉藤やすひる君	今村 るか君
副委員長	伊藤こういち君	山崎 一輝君	秋田 一郎君
副委員長	相川 博君	石川 良一君	吉田 信夫君
	川松真一朗君	徳留 道信君	欠席委員 なし

出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	中嶋 正宏君	大会準備部長	延與 桂君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	運営担当部長	田中 彰君
技監	邊見 隆士君	競技担当部長	根本 浩志君
技監	西倉 鉄也君	パラリンピック担当部長	菅場 明子君
技監	石山 明久君	障害者スポーツ担当部長兼務	
理事	小山 哲司君	施設輸送担当部長	花井 徹夫君
総務部長	鈴木 勝君	施設調整担当部長	小室 明子君
調整担当部長	雲田 李司君	施設整備担当部長	小野寺弘樹君
総合調整部長	児玉英一郎君	選手村担当部長	安部 文彦君
連絡調整担当部長	岡安 雅人君	スポーツ推進部長	早崎 道晴君
準備会議担当部長	丸山 雅代君	国際大会準備担当部長	土屋 太郎君
自治体調整担当部長	井上 卓君	スポーツ施設担当部長	田中 慎一君
計画調整担当部長	鈴木 一幸君		

本日の会議に付した事件

二〇一九年に開催される第九回ラグビーワールドカップ二〇一九の開催に向けた効率的かつ専門的な調査・検討及び必要な活動を行う。

報告事項

・ラグビーワールドカップ二〇一九の東京都における経済波及効果について(説明・質疑)

・ラグビーワールドカップ二〇一九の概要について(質疑)

石川委員

私は昨年十月、東京都議会ラグビーワールドカップ二〇一五イングランド大会の調査団の一員として、高島団長のもと、直接ワールドカップを視察する機会を得ました。ラグビー発祥の地での大会という

ことで、大会会場周辺のみならず、まちが熱気に包まれている様子を体験することができました。

特に八万人の観客を収容可能なトゥイックナム・スタジアムは、試合の興奮だけでなく、お互いにラグビーファンであることをたたえ合うフレンドシップに触れ合うことができました。まさに、ラグビーのノーサイドの思想、試合が終われば敵も味方もないということを目の当たりにするすばらしさを体験することができました。

また、南アフリカに日本が歴史的な大逆転で勝利した後ということもありまして、日本の健闘をたたえ、私たちも多くの国のラグビーファンの皆様からもたたえていただくことができました。

イングランド大会は、ラグビーの本場中の本場での大会で、またロンドン・オリンピック・パラリンピックを成功させた経験を十分に生かした大会でもありました。

我が国の二〇一九年ラグビーワールドカップの開催は、アジアで初めてであり、しかも、イングランド大会後という厳しい条件の中での開催となります。イングランド大会にどこまで迫れるかが現実的な目標となるのではないかと考えております。

同時に、ラグビーの開催を機会に、ラグビーの振興、スポーツの振興、ラグビーの持つ教育的にすぐれた効果を生かしていくことや、国際化、全国各地で開催されることによる経済効果など、さまざまなシナジーを大いに引き出していくことが求められております。

そして、大会を成功させ、オリンピックにつなげていくという大きな使命を首都である東京は担っているといっても過言ではないかと思えます。

きょうは、ラグビーワールドカップ特別対策委員会の質疑が始まる最初の委員会の開会となったわけでありませけれども、以上述べましたように、大会を何としてでも成功させたいとの立場から、基本的なことを何点かお伺いをさせていただきます。

まず、ワールドカップ大会開催に当たって、イングランド大会はもちろんのこと、過去の大会を参考にしながら、日本大会の目標を日本大会組織委員会が立てることになるわけでありませ。

イングランド大会は、四十八試合で二百四十七万人、一試合平均五万一千人の観客が観戦をしたこととなります。五万人までいかないわけですけれども、これは東京スタジアムの満席を超えた数字を残したことになるわけでありませ。これは大変な数字で、五万人を超えるスタジアムは、横浜にしか今のところ予定をされていないわけでありませ。

現段階において、日本大会ではどのぐらいの観客を想定しているのか、また、いつごろまでに正式な目標が設定をされるのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

試合運営やチケット販売、観客数の目標など、大会運営に関することは組織委員会の役割でございます。今後組織委員会によって計画されると聞いてございます。

平成二十九年から三十年にかけて試合日程が発表となり、チケットの概要も発表される予定と聞いてございます。

観客数の目標につきまして、今後具体的な試合日程を踏まえ、組織委員会により計画されるというふうに聞いてございます。

石川委員

最も遅くなると二〇一八年ということになり、本番の一年前でテストイベントが開催される年にも当たるわけでありまして、大変慌ただしくなるうかと思えます。できるならば、二〇一七年中に目標が設定されることが望まれると思っております。

大会運営に当たっては、まず観客をどれだけ呼べるのが大会経営という視点で見ても重要なわけでありませけれども、日本全体の十二会場の収容人数の合計、すなわち現状での施設の最大の集客数はどのぐらいになり、今後、十二施設の改修等はどのような状況になっているのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

日本大会の開催都市のスタジアム収容人数の合計でございますが、組織委員会が発表している各会場の収容人数を単純に合計いたしますと、約四十五万人でございます。

今後の他会場の施設改善の状況についてでございますが、都が把握している範囲では、ベンチシートや立ち見席を含む三万人収容の東大阪市花園ラグビー場及び二万四千人収容の熊谷ラグビー場が施設の改修を行うと聞いてございます。

石川委員

四十五万席、イングランドは六十万席というふうにいわれておりますから、新国立がなくなった影響というのは大変大きいなということを改めて実感をしているわけでありませ。

一部メディアによりませと、日本大会組織委員会は、大会保証料として国際統括団体のワールドラグビーに九千六百万ポンドを支払う義務があるといわれております。大会運営費自体は開催国が全額負担をすることになっており、主に入場券収入は三百億円が目標であるともいわれております。これが本当だとしますと、イングランド大会では二億ポンド、四百億近い金額のチケットの売り上げがあったとのことでございますから、大変な数字になるわけでありませ。

しかも、ワールドカップで得た資金は、今後のラグビー振興のために、各国のラグビー組織に配分されるということでありまして、大会を通じて収益を上げなければならないという使命を負っているわけでありませ。

そこで、大会におけるチケットの販売目標は、既にオーソライズされた数字が出されているのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

先ほどご答弁申し上げましたとおり、チケット販売の販売目標につきましては、平成二十九年から三十年にかけて、試合日程及びチケットの種別や値段が発表された後、具体的な試合日程を踏まえ、組織委員会により設定されると聞いてございます。

石川委員

イングランド大会のチケットは、ロングサイド、ゴール裏、不指定などさまざまでございますけれども、数万円から、決勝戦ともなると数十万円になり、これは我が国のスポーツ観戦の常識からしますと、大変なことになったと思わざるを得ないわけでありませ。今後、いかにラグビーの裾野を広げ、経済的にも振興を図っていくのかということ短い期間で進めなければならないということを痛感するわけでありませ。

ワールドカップのチケット代金からしても、いかに世界中の富裕層を我が国に迎え入れることができるのが大きな課題といえるわけでありませ。このことは、翌年のオリンピック・パラリンピックにも通じる課題といえるわけでありまして、観光立国を目指していく上でも欠かせないわけでありませ。

世界の富裕層の中には、一般のエアラインだけではなく、プライベートジェットで旅をする人もふえていますと、サッカーワールドカップ日韓開催の際にも話題になったことがあります。

昨年のイングランド・ワールドカップのプライベートジェットによる来客数がどのようなものだったのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

日本の組織委員会に確認いたしました二〇一五年イングランド大会におきまして、プライベートジェットを利用する関係者や観客がいたということ聞いてございますが、具体的なデータについては把握していないとのことでございます。

石川委員

ぜひ少しでも状況を把握していただきたいなと思っております。

サッカーワールドカップ日韓大会開催の際に、横浜基地を使えないかという議論がありました。結局、基地の改修工事期間と重なってしまうという理由で活用はできなかったわけでありませ。

昨年二月、多摩地域経済団体横田飛行場民間利用促進協議会が発足をし、設立趣旨、経緯の説明の中に、横田飛行場への民間航空利用を二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック開催時までに実現するよう、地元多摩地域の経済団体等が連携して、多摩地域経済団体横田飛行場民間利用促進協議会を設立するものであるということで設立がされたわけでありませ。

世界各国から選手や大会関係者、観戦に数多くの人々が東京を訪れるわけでありませ。これを契機に、多摩地域の経済活性化を推進するため、羽田、成田空港だけではなく、横田飛行場に民間航空機が利用できるよう、多摩地域の商工会、商工会議所等の経済団体が連携して実現を目指すために設置をした機関なわけでありませ。

そして、目的は今申し上げたようにうたっているわけでありませけれども、昨年二月の段階では、ラグビーワールドカップの開会式や開幕戦が多摩地域にある東京スタジアムで行われることは想定をされていませんでした。今回、ラグビーワールドカップを目標に、特にプライベートジェットが利用できる空港として位置づける突破口をつくっていただくことを強く求めておきたいと思えます。これは意見にとどめさせていただきます。

ラグビーは、走る、投げる、蹴る、当たる、跳ぶなど、陸上競技、野球、サッカー、アメリカンフットボール、相撲、バレーボール、バスケットボール等、スポーツの多面的な身体能力を必要とする総合スポーツであり、大きい人、小さい人、俊敏な人というさまざまな体型やタイプを必要とします。

特に強い闘争心と忍耐力、我慢する心、他者との連携、チームとの調和等、現代の若者に欠けているともいわれている心身ともに必要な要素を兼ね備えたすばらしいスポーツであり、先ほどのお話にありますように、ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワンという言葉に凝縮した自制や、他者への尊敬の念を育てるという極めて道徳的、教育的要素も備えているわけでありませ。

ラグビーの普及は、ワールドカップの成功のためという目標だけでなく、その後のラグビーの精神文化の定着、継続というレガシーをつくっていくためにも重要と考えませ。

今後、東京でのラグビーの普及をどのように図っていくのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

ただいまご指摘がありましたとおり、ラグビーの普及は二〇一九年大会の成功、加えまして大会後にレガシーを残していく上で大変重要でございます。

これまでスポーツ博覧会や味スタ六耐など、都主体のスポーツイベントなどを利用して、イングランド大会における日本代表の活躍を映像で流したり、ラグビーボールに触れる場をつくるなどの取り組みを行ってまいりました。

また、ラグビーのルールや魅力を当局のホームページやSNS SNSなどのメディアを利用し発信してまいりました。

今後、ラグビートップリーグ選手等の協力もいただき、都主催のスポーツイベントにラグビー体験を取り入れるなど、ラグビーのすばらしさを伝える取り組みを進め、ラグビーの普及に取り組んでまいります。

石川委員

国際化、国際化と一般にいても余り意味がないわけでありませ。具体的に何かを通じて、海外の文化などを通じて人とコミュニケーションを図り、お互いを理解し、高め合うことによって国際化の意味が開くわけでありませ。

二〇一九年ワールドカップの開催は、ラグビーを通じて国際化を図っていくまたとない機会といえるわけでありませ。

オリンピック教育も始まりませが、学校現場でもラグビーを導入した教育を図っていただきたいと思えます。七人制ラグビーやタグラグビーは、より安全性に配慮したルールともなっているわけでありませ、学校でのラグビー教育を推進していただきたいと思えます。また、そのことがワールドカップの成功にもつながり、レガシーとなっていくものと思われます。

前回の説明ですと、開催都市は開催自治体協議会が設立をされており、東京都知事がこの協議会の会長となつていただいております。全国で試合が行われ、国と自治体、自治体と自治体の連携をしっかりとしたものにしていただければならないことが、当然のことかと、自思います。

行政機関は開催都市間で協議会を結成しましたが、この協議機関は具体的にどのようなことを行っていくのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

ラグビーワールドカップ二〇一九開催自治体協議会は、開催自治体をもって構成され、ラグビーワールドカップ二〇一九に向け、開催自治体が相互に連携及び協力をすることにより、その準備を円滑に進め、大会を成功させることを目的としてございます。

今後、機運醸成、会場周辺のセキュリティ確保、交通対策など、各開催都市に共通な課題について、都も率先いたしまして、開催自治体間で情報交換や連携を行いませ、大会の準備に生かしてまいります。

石川委員

ぜひ着実に進めていただきたいと思えます。

今回、ロンドンやバーミンガムを視察して感じましたことは、ワールドカップは世界の三大大会の一つといわれるように、多くの海外からのお客さんを迎え入れる一大イベントということでありませ。大きくたたけば大きく返ってくる、そのようにも例えられるのではないかとと思えます。

行政だけでなく、各自治体の議会も巻き込んで、まさに車の両輪として、ラグビーワールドカップ日本大会の成功に結びつけるための全国の開催都市議会の連携と協議のための機関の設立を提起しておきたいと思えます。

最後に、先ほどワールドカップの経済効果についての説明がございましたけれども、今後、この経済効果をさらに高めるためには、どのようなことが考えられるのかお伺いいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局国際大会準備担当部長

ラグビーワールドカップの経済波及効果における需要増加額につきましては、先ほどご報告申し上げましたように、大会運営費、観客客等の支出、家計消費支出などから構成されてございます。

大会の経済波及効果を高めるには、多くの消費活動を誘発する必要がありますが、そのためには大会そのものを盛り上げ、成功に導くことが何よりも重要でございます。

大会準備期間におきましては、開催機運を醸成し、大会への関心を高め、記念グッズなどの購入増につなげていく。また、大会期間中におきましては、魅力的な会場づくりや効果的なファンゾーン設置により、多くの観客に飲食などを楽しんでいただく。さらに、東京を訪れる国内外の方々に試合観戦だけでなく、都内の観光地をめぐり、宿泊や飲食を楽しんでいただくことも重要でございます。

このため、都の観光施策とも連携いたしまして、東京、日本の魅力を世界に発信するとともに、世界的なスポーツの祭典であるラグビーワールドカップの観戦を心から楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

石川委員

何といいましても、海外からの来訪者をふやすことと、快適に日本でワールドカップを観戦し、旅をエンジョイしてもらい、リピーターとしてまた来ていただくきっかけをつくり、多くの人に日本のよさを語っていただく必要があるわけでございます。

また、イングランド大会のために、六千人のボランティアが活動したといわれております。いわば、オリンピック・パラリンピックのまさに前哨戦ともいえるわけでありませ。このことに照準を合わせて、都はさまざまな施策を積み重ねるスタートラインに立っているわけでありませ、ともに力を合わせていかなければならないことを申し上げまして、質問を終わります。